（日曜日休刊）　（定價金二錢）　（本號六頁）　（郵便物認可）

時事新報

時事新報

左の一篇は本年二月東京灣を解纜して濠洲南洋地方の巡航を終りたる帝國軍艦筑波號に便船して各地を遊覽し過日無事に歸京したる學士志賀重昂氏が南洋巡航紀聞中の一節なり、時事新報記者

日本と濠洲との貿易

志賀　重昂

工業興すべく物産殖すべし日本人は冒險企業の氣概に乏し宜しく英米人を則る可し我國内に資本の餘裕無し宜しく外債を起す可し外國の資本を輸入す可し外人の內地雜居を奬勵して以て國內の金融を滑かにす可しと是れ今の學者が奬說する處なり其議論の是非は予の與り知らざる處なりと雖も假りに我國萬般の事物をして悉く志士が意の如くなりし然毫も不滿不足無き境遇に到りたるものと想像して資本は日本國內に充實し各種の工業は日に月に興り諸般の物産は海のごとくに盈ち山の如くに堆積もこれと消費しまれを販賣するの好市場無ければ眞に實の持ち腐りにして所謂實梁隨に盈つれども用無けれと納めざるに等しきものと云ふ可し今日我國の風潮は漸次興業殖産の一途に歸する傾向あれば數年を出でずして國內に工業生産の興起をるは期して待つ可きものあり然れば今日より豫め後圖をなし周ねく各國と通覽して其俗を察し風を觀て箇々の嗜好を審し人々の需用と考へ以て他日の爲めに廣く新販路を世界に求ひるは敢て大早計と云ふ可らず其事の肝要なること猶今日陸海軍參謀の諸士が各國の兵勢地形人情等を視察するに等しきものなり將た又今日只今と雖ども我國の物産を新に消費販賣すべき好市場あれば敢て他日と待たず直ちにこれに手を着け盛んに通商貿易を試む可きは理の當然なりして予が曉々を待たざることならん

我日本の東隣を米國となし西は支那、北は露領蒲潮斯德埠方にして南隣を濠太利洲（濠洲并に新西蘭）とす東西北の三隣國は夙に吾國人の通商貿易する處にして公私の交際往來も亦頻繁なりと雖も獨り南隣の濠洲に限り今日に到るまで未だ遽も我國人の注意を惹かざるは實に不可思議の至りなりと云ふ可し、今日の濠洲は五年前の濠洲に非ず今日の濠洲も亦後年パナマ運河落成後の濠洲に非ざるべし其進歩發達の速かなるは尋常思想力の外に出で眞に駟馬も及ばざる有樣なり人口は三百萬に餘る廿萬人以上は都會二箇、一萬人以上の都會十餘箇を以て數へ鉄道線の延長は既に五千英里を超へ其人民と問へば敢爲剛毅の氣象を以て名を博したるアングロ サクソン民族中の最も敢爲剛毅なるものゝ團結したるものあり斯く文明開化は一邦國が近く我が南隣に在るとも拘らず我輩が今日まで此れと交通往來せざりしは眞に解すべからざる次第なり尤も我國の物産と雖ども濠洲の市場に販賣と試みたる事無きに非ず即ちシドニー府はハイド公園に到れば日本人種中にて最下等の擬本とも稱すべき人類三十九名の出品あり即ち乞食芝居の役者、喰詰めたる茶屋女、傀儡師、藝妓、破落戸等にして所謂日本村落の材料となすものなり其他二三有爲の日本商人ありと雖も此輩は皆本年三四月の交シドニー府へ到着したるものにしてグランドホテルの三層樓に宿泊して時々些少の取引をなしたるものゝ過ぎず予れ希望する處は斯くの如き規摸の僅少なるものに非ず我國有爲の資本家が團結して大に爲す處あらん事を切望するものなり

我日本より濠洲に到る海上は風波殊に靜穩にして所謂太平洋の名に負かず煙波五千三百英里帆走船の早きも順路と記るさんは先づ碇を抜き帆を揚げて東南に航駛すること數日にして東北貿易風の區域に入る此區域を入れば風位甚はざ變更せず恒に一定の方向より吹來り天象は變化錯亂も亦渺きと以て隨て勞を用ひ力を要する事も少なき斯くて數日を經過して赤道線を横過して南半球に入り漸く進みて南緯五度の處に到るは內中外の三航路あり尋常の帆走船あれば中路を取るも敢て危險は患無しとす此航路はビスマルク群島の間を航駛するもの（ビスマルク群島は輿地圖上にソロモン羣島と記載する處なり去年五月獨逸國占領以來今の名に改稱せたるものなり此航路は先年我國帆走船謙信丸が月夜に經過せしことありしが絶へて危險の憂無かりしと云ふ）此れより復た東南貿易風の區域に入り旬日ならずして濠洲の遠山と右舷に認めまを沿ひ航駛をる事一兩日にして旭日の旗章と翻へしてシドニー港に入り碇を投ずれば其日は毎夕新聞に早くもこれを探訪して直ちに其紙上に登錄し嘖々として日本人の冒險大膽あるを稱揚をるあり且近時濠洲人民は日本人の敏捷にして清廉あるを欽賞して揚ゞざる處あれば我輩船の携帶したる貨物は直ちに售を盡して復た餘す處無きに至る可し

此帆走船が携帶すべきものは如何なる物品あるべやといふに先づ濠洲人が食卓に供する印度米は漫膠にして風味宜しからずとの評あれば宜しく此機を外さず濃漢相和して佳味ある日本米を持ち往くべし（但し器械搗き米に限る）、濠洲は人民は富豪にして且女子の衣服を裝飾する事男子よりも甚しければ宜しく我絹布、綿織物を送るべし（愛蘭の婦女が炊婦とあれば本國にて一箇年の給料五十弗英國にては七十五弗なれども濠洲にて百八十弗と受く故にシドニー邊にては下婢に至るまで美服を着せり）、陶器、漆器、生漆皆妙なり、日本製の麥藁帽子は閑雅なりとて近時西洋人は好評を得れば此れも送るべし、濠洲人の日常飲用に供する茶は印度、支那製の紅茶にして我が綠茶に非ず故に國製の茶を持ち往くは無益に似たりとも南米諸邦にては到る處我國の番茶（ばんちゃ）と賞美し且つ日常盛に之を仕用をる由なれば宜しく國製の番茶數萬斤を荷積まこれと濠洲商人に賣拂ふべし濠洲と南米諸邦とは直接の貿易汽船航路あるにはあれど獨逸したる濠洲商人は獨斷の利潤を以て南米國に送るあるべし、國製の櫨附木、石鹸、洋燈の＊ヤ等は其の價廉なるに其製造に於て果して精良ありせば必らずや濠洲の市場に於て他國製のものと競爭するも敢て敗を取るまじと無かる可し其他扇子、團扇、紙製の日傘、小間物類にて所謂ファンシー グーズと稱する雜貨を携帶すべし、唯此般の諸貨物を携帶するに一事の注意をべきものは我國より濠洲に到るまでは南北溫熱の四帶を經過せざる可らず隨て氣候の變化殊に甚しきを以てこれが保存に氣付ざる可らざる事なり其保存に於て間然する處無く品質に於て精良ならば我國にて至廉の勞力を以て製造したる品物を勞力の賃銀七倍するの市場に販賣する事なきば其利決して微少あらざるを信ずるなり

偖又此帆走船の巡航するに當り濠洲より荷積みして我國に携帶すべき物は羊毛と石炭とあり濠洲羊毛の廉價にして且纖緯の精緻なるは世の知る處なり英米國產のものゝ比に非ず我國にても近時漸く毛織物、絨氈等の製造事業興起したれど羊毛需用も亦尠なからざる可しと信ずるあり又濠洲ニューカッスル地方の石炭は一噸に付最上等十一志（我金貨二圓七十五錢）あれども尋常商賣上の取引にては九志四片（我金貨二圓卅三錢三厘）にて容易に購求するを得べしと今之と我國まで積來る雜費と一噸に付一圓と高積りするも都合三圓三十三錢三厘なり然るに我國にて唐津、高島、横内等の石炭は一噸六七圓の間にして如何なる場合に到るも五圓三十錢より廉價なる事無し即ち石炭にても其利潤あるべしと思ひ諸々詢て見るが如し（此事は先年謙信丸が濠洲石炭を積み歸りて利益を得たるあるとあるも知るべし）

蓋し東北、東南の兩貿易風を往復共に利用し得るものは獨り日本と濠洲の航路のみなり嗚呼天地の風を降して我國人の利用するあり任ず而して我國人が今日迄これを用ひずこれを利せざるは怪しとして顧ざるものゝ獨り貿易上の愚人のみに非ず亦天の罪人なりと云ふべし斯くて我船舶の往く可きものあるは彼にも亦來り彼此の事情を相通じ公私の往來も亦頻繁なるに至らば其利益關係の及ぼす處獨り貿易上のみに非ざるあり

濠洲人民の近時に到り遽かに日本國に注意するに至りたるが如し今春以來濠洲並に新西蘭の新聞紙上には嘖々として我國の現情を論說し日本は我が海隣國あり日本國內に濠洲羊毛の新販賣市場を求ひべしと唱ふるもの比々相聯き遽に本年四月下旬メルボルン府紳商の大會議とあり先づ自から七萬五千磅を醵し日本の商人と二萬五千磅と出さしめ都合十萬磅と資本とし濠洲の羊毛と日本に販賣し且日本國內に一箇の羅紗製造所を新設せんとの議起り問屋在日本名譽顧事マークス氏の如きも現に其會議に列ありたりとか聞きぬメルボルン府とシドニー府とは相互に其繁昌と競爭する況からんやはメルボルン府民の企圖を聞きてはシドニー府民も亦悟として是れを坐視せず必らず起ちて我國との通商を企圖する事あらん、蓋し濠洲人民の日本國に注意するは今日より甚しきは無し嗚呼吾國有爲の人士は何んぞ遲きて此好機會に投せざる

官報

○遞信省告示第三六號

明治十八年九月遞信省第二十號告示郵便爲替細則中左ノ一章ヲ追加シ明治二十年一月十六日ヨリ施行ス

明治十九年十二月八日　遞信大臣侯爵本武揚

第六章　爲替金渡濟通知

第三十七條　爲替差出人其爲替金ノ渡濟通知ヲ要スルトキハ樣メ振出局ニ之ヲ請求スベシ○第三十八條　爲替金渡濟ノ通知ハ郵便局ニ於テ爲替金ヲ拂渡ストキ通知書ニ受取人ノ證印ヲ取リ即日之ヲ差出人ニ送付スルモノトス○第三十九條　爲替金渡濟ノ通知料ハ爲替證書一枚ニ付金二錢トス○第四十條　通知料ハ郵便切手ヲ以テ納ムベシ其切手ハ爲替願書又ハ小爲替原符ニ貼付スベシ、但通知料ニ用ヒタル郵便切手ハ振出局ニ於テ消印シ納濟ノ證トス○第四十一條　爲替金返戻ノ場合ニ於テモ既納ノ通知料ハ還付セス○第四十二條　通知料納濟ノ爲替ハ振出局ニ於テ其爲替證書（電信爲替ハ領收證書）ニ通知料納濟ノ印ヲ押捺シ交付スベシ○第四十三條　渡局ノ求メアリテハ其爲替金渡濟ノ條　爲替金渡濟通知料還付スベシ○第四十四條　郵便切手ハ通知料ニ限テ通用スルモノトス

○賞勳年金交付　來る十日より十四圓五十錢、千四百九十圓五十錢

○軍人待遇規則　過日に其の家人共の殘の節又は在營中村新携貴五名以上の後繼代は五日以內より少から子退職公務に因りて死亡金五圓を贈るとなすして他に對する中都內又は一村の死沒者の家人は現者は其の遺日より日の意を表するため を問はず實際地を給するとの愛たる者は其の二十年一月一日より

○東京高等女學校　郷方の誠に付き去

一生徒九尊常出ル者ヲ入學ニ後凡一年間ニ誤ニ割スル究セレルル者一日本語來ノ一レテ改風ヲ國情ニ其ノ一體操八年餘

○札幌通信　地より來札せりしが第二期最初の七百五百五十六拍せる積取船景氣は至て寂直押賣扣の姿づるならんとせしは二割五ふる通り去十頃迄の降り頻時不通とあれたれども當地今は至つては止むるに至甚だ困難を極（ごくしん）慶機の工事あ所あり右兩所たれども機式ふ通信者は試幌を去る書と札幌より六も角も書通は秘からざり改盤せるもの驛て容易く先路の內新る起常山義と云へに位せると以にて唯一清閑にては十二三みにて裕客れに見る所ある